

もっと笑顔で、暮らせる明日へ。

aito

12

Dec 2021
No.321



踊りを通してできた輪を大切に

三川支所管内 五十嵐 としさん(70)
えのき 榎木 フジコさん(75)



いつまでも仲良く元気に育ってね！

羽黒支所管内 山口 琥珀くん(5)・絃波くん(4)・叶葉ちゃん(1)

琥珀くんは、運動神経バツグンのお兄ちゃん。負けず嫌いで追いかけっこが得意です。

ひいおばあちゃんっ子な絃波くんはよく一緒に畑を散歩しています。明るい性格で家族を和ませてくれます。

食欲旺盛でお米が大好きな叶葉ちゃん。お兄ちゃんの後ろについて真似っこをしています。



ファミリーファーム

櫛引支所管内 前田 浩さん(60)・恭輔さん(31)



施設園芸から安定収入に繋げる

(浩さん) 私は高校卒業後、機械系の仕事に就いたものの、家業を継ぎたいという思いから36年前に就農しました。就農と同時に施設園芸やきの栽培などの規模拡大を図り、現在は花き900坪と水稻10haを中心に栽培しています。農業をしている中で、努力が実になることや収穫の喜びを味わえることが私の喜びです。また、毎年気候が異なるので収量を安定させることが農業の難しさだと感じています。今後は、息子が就農してくれたので、その手助けをしていきたいです。

(恭輔さん) 私は、車部品製造の仕事をしていましたが、父の怪我がきっかけで農業を手伝うことになり、その際に農業に魅力を感じ2年前に就農しました。農作物を作っていく中で、その都度生育に注いた努力が実を結び、達成感を実感できることが喜びです。また、思うように農作物が育たなかったり、販売できなかったりと苦労もあります。今あるものを引き継ぎ時代に合わせて高品質な農作物を作りたいです。

庄農生トライ

SHONOSEI TRY



特産物を活かした商品開発を目指す

食品科学科3年 佐藤 直樹さん 鶴岡市



私の家は非農家ですが幼い頃から農業に興味があり、庄内農業高校では主に枝豆や白菜、トマトなど様々な野菜を栽培してきました。2年生からは食品製造の授業を通してうどん、スcone、ケチャップなどを作りました。そこから栽培だけでなく加工にも興味を持ち、3年生の課題研究ではフードロスを減らす活動に取り組みました。枝豆の莢や家庭で余ったご飯を活用したパスタを作り、高校生を対象にしたフードロス削減を目的としたレシピコンテストにも応募しました。この経験から食品の知識や加工技術を深く身につけ、これまでになかったような新しい商品を開発したいと強く思いました。

私は進学後、地域の特産物を活かしながら多くの人に美味しさや魅力が伝わる商品の開発を目指し、庄内地域の活性化に貢献できるよう更に勉強に励みたいと思います。



促成栽培を担う生産者の声



約40年間農業に携わり、促成山菜の他、水稻、トルコギキョウなどを栽培する複合経営を行っている。現在の栽培規模はこごみ約2万3000～5000株、行者にんにく約150箱。

農事組合法人中村 渡部一弘組合長

地域では、冬期間の貴重な収入源として山菜の促成栽培に盛んに取り組んでいます。JAでは、12月上旬から京浜や大阪市場へ向け、山菜全体で約16万パックを目指し、来年4月中旬まで出荷していきます。

J A 朝日支所の山菜栽培研究会に所属し、促成山菜は東北を代表する山菜、こごみと行者にんにくを栽培するメリットは何と言つても冬場に農作業ができ、収入に繋げられることです。育苗ハウスを活用でき、一年を通して有効利用しています。



おいしい促成山菜をお楽しみに!

どうやって促成するの？

ハウス内に温床を作りそこに根株を伏せ込み加温を行います。株は伏せ込む前に一年間冷凍し十分な休眠を与えることで順調な生育に繋がってきます。山菜それぞれの生育ステージに合わせながら11月下旬からハウス内に並べ、10～15℃の適温を保ち栽培管理に努めていきます。また、乾燥しないよう灌水作業も重要です。



二段式の加温ベッドで様々な山菜を育てていく。

促成山菜で春の味を先取りしてみない？

え!?
もう食べられるの!?

促成山菜って？

促成山菜とは、春が旬の山菜を雪深い冬の間に暖かなビニールハウスで栽培し、収穫する山菜のこと。一足早い春の味を消費者の皆さんへお届けしています。当JAでは主に「青こごみ」(※東北地方では「青こごめ」と呼称されることも)「行者にんにく」「たらの芽」「ウルイ」などを出荷しています。天ぷらや主菜のつけ合わせなどで大活躍の品目です。



行者にんにく

青こごみ

たらの芽

菊・夏季の安定生産を目指して

J A花き部会菊・スプレー菊専門部は11月24日、藤島支所で新品種説明会を開いた。菊生産者に来年作付けの参考にしてもらおうと取引メーカーである㈱セレクタジャパン、㈱デリフロールジャパン、㈱デュメンオレンジジャパンの3社が新品種を説明した。参加した部員ら約20人は、高温などが原因で葉焼けや開花遅延の発生が多い夏季でも安定的に出荷していくため、暑さに強く発色の良い品種の取り入れを検討。耐暑性や葉の強さ、夏場でも花の色が褪せにくい生育特性など各新品種の特徴に注目した。同部は今後、栽培講習会や圃場巡回などを行い来年産の出荷量増加と高品質生産に努めていく。



柿しぐれ・高糖度を確保

J Aと庄内柿振興協議会は11月5日、J A全農山形と連携し鶴岡市のJ A流通センターできめ細かいゴマと強い甘みが特徴の庄内柿「柿しぐれ」の出荷目揃え会を開いた。参加した会員ら約10人は、出荷規格と今年産の品質概況などを確認し、高品質出荷に向け意識を統一した。今年産は、8月下旬～9月中旬の低温の影響で昨年産より4～5日早い荷受け開始となった。8月上旬の猛暑と多日照により日焼け果などの発生が見受けられたが、糖度は例年以上に高く市場でも評価を得ている。選別基準は、着色良好で熟度が良く障害などがないものを秀品とし、出荷前は必ず脱済検査を行うこととした。



トルコギキョウ・単価前年比11%高

J A花き部会トルコギキョウ専門部は11月17日、新余目支所で出荷反省会を開き、参加した部員約20人は今年産の生育状況や販売実績などを振り返った。園芸特産指導員によると、今年は全体的に高温傾向にあり生育前進や丈不足が懸念されたが、部員によるハウス内の遮光管理と的確な枝整理などで十分な生育を確保し、秀品出荷が多かった。また、土壌消毒の徹底により病害被害が減少したため、市場から高い評価を獲得し、販売単価は前年比11%高の1本163円と高単価で取引された。来年度は、定植後から梅雨入り前の栽培管理の他、適度な圃場水分と追肥で生育を促し品質向上を目指していく。



枝豆・種子選別で生産数量を調査

J A枝豆部会は11月25日、羽黒支所分析センターで来年に播種予定である枝豆種子の選別講習会を開いた。参加した関係者ら約10人は、種子の水分量や重量を専用の道具を用いて測定し、歩留まり率を調査。この調査は、生産量に直結する極めて重要な作業であり、種子1粒に対して最終的に得られる生産数量の割合を求めた。調査の結果、歩留まり率は80%以上と高数値で、安定生産を期待し部会員らは意識を高めた。選別した枝豆種子は三川町のJ A育苗施設で発芽試験を行い発芽率を確認する。種子は、4月に部会員らへ配布し、4月下旬頃からJ A管内各地で播種作業が始まる予定。



地域とJAを結ぶネットワーク 各地の話題を追って

JA NEWS

掲載記事の詳細はホームページに掲載しております



行政へ農林予算編成の要請書を提出

J AとJA農政対策推進協議会は鶴岡市と庄内町、三川町へ2022年度農林予算編成にあたっての要請書を提出した。新型コロナウイルスや頻発する自然災害への対応について万全な支援の他、地域農業の生産基盤強化に向けた支援策の措置や制度の継続と農林予算の確保などを強く求めた。J A役員らが各行政に出向き、高品質な農産物を安定的に生産し供給できる土壤改良に取り組む農業者・農業法人などに対する支援や、経営技術向上のために農業先進地で行う視察研修の支援の他、中山間地域などにおける農作物の鳥獣被害防止に有効な対策や米穀・園芸・畜産関係に関する支援などを要請した。



阿部誠三川町町長右に要請書を提出する菅原事務左

JA一丸となり未来を見据えた取り組みへ

J Aグループ山形は11月17日、山形県総合文化芸術館で第29回JA山形県大会を開いた。当日は、吉村美栄子知事をはじめ、県内各JAの役職員ら約500人が出席。「持続可能な農業・地域共生の未来」に向け、重点的に取り組む6つの柱に山形独自の地域・担い手支援の強化を盛り込んだ。また、コロナ禍にあっても協同組合の人と人との絆の重要性は不变とし、対面を基軸とした組織・事業・運営を堅持する独自の取り組みも確認した。JAグループは今後、持続可能な農業の実現や豊かでくらしやすい地域共生社会の実現などに向け10年後を見据えた「めざす姿」への取り組みを図っていく。



鶴岡市へカーブミラー寄贈

交通事故防止に役立ててもらおうと、JAとJA鶴岡、JA共済連山形は11月12日、鶴岡市にカーブミラー21基を寄贈した。当JAの齋藤学常務やJA鶴岡の伊藤淳専務らが同市を訪れ、皆川治市長に目録とカーブミラーのレプリカを手渡した。皆川市長は「長年支援をいただき御礼申し上げる。カーブミラーを活用し、市民のみなさんへ交通安全の啓発を図っていく」と話した。この寄贈は地域貢献活動として1973年から始まり、同市への寄贈数は計1494基となった。この他、建物更生共済における共済金の支払状況やアンパンマン交通安全キャラバンなどの地域貢献活動も報告された。



ストック栽培で所得UPを目指しませんか？

ストックは水稻育苗後、活用して栽培ができ、10月から4月に収穫・出荷できるため、冬場の所得確保が可能です。他の作物と組み合わせて栽培することで、安定した農業経営が期待できます。また、寒場からの評価も高く、面積当たりの収入が安定している点も魅力です。

ストック栽培のメリットって？



山形県庄内地方のストック栽培は、昭和30年代から始まり50年代以降「庄内ピンク」というブランドで大ヒットし、市場での評価が高まりました。現在では、首都圏の市場をはじめとする主要取引市場から「世界一の品質」との評価を頂いております。

②施設園芸生産性改善助成
①園芸設備生産性向上支援助成
連作障害が課題となっている品目に対して、土壤消毒資材及び土壤改善資材の支援を図り生産性向上させることを目的としています。

支援助成も充実しています



J Aでは、新規作付・収量確保に向けて全力でサポートしています！ご興味のある方は、宮農販売部園芸特産課までご相談ください。
☎0235-64-5831
✉entoku@ja-shonai.or.jp

信用Q&A



Q 来春、大学に進学を予定している高校3年生の子供がいます。アパート代などの生活費の支払いに、JAの教育ローンを利用することはできるでしょうか？

A JAの教育ローンは、高校、高専、短大、大学、専門学校等の入学前に必要な入学金や授業料などのお支払いのほか、お子さまがひとり暮らしを始める際にかかる、アパート代などの生活費にもご利用いただけます。更に、在学

中は随时お申し込みいただける他に、在学期間分をまとめてお借入れすることも可能です。

ご返済方法は毎月返済（ボーナス増額返済も可）となりますが、在学中は元金の支払いを控え置いて利息のみを毎月返済し、卒業後に元金の返済を開始することができます。

なお、当JAホームページでは簡単・スピーディーなネット審査（仮審査）を行っております。ネット審査お申込みで金利がお得になるキャンペーンも実施中ですので、ぜひご利用ください。

詳しい商品内容、ご利用条件については、当JAホームページ、または各支所融資窓口までお気軽に問い合わせください。

詳しくは
こちらから！



大学生らが庄内柿の集荷・選果作業を学ぶ

J Aは11月8日、羽黒地域にあるJ A庄内柿中部選果場で山形大学農学部アグリサイエンスコースの学生らを対象に庄内柿の集荷・選果作業体験を行った。この体験は、集中管理しているJ A集出荷施設における庄内柿の集荷から出荷までの作業工程を把握することを目的としている。参加した学生ら約15人は、出荷調整によるブランド品質確保の重要性と庄内柿の出荷規格や等級区分などについて知識を深めた。また、ベルトコンベヤーから流れてくる形や品質を確認し、丁寧かつ素早く箱詰め作業を行った。J Aは今後、学生らに食料や農業などに関する学びの場を提供していく。



青年部・盟友研修会で部員同士の交流を深める

J A青年部は11月20日、同世代の仲間との交流で相互研鑽を図るため鶴岡市で盟友研修会を開き、部員ら約60人が参加した。研修会では、株式会社石井製作所の石井智久社長と酒田米菓株式会社の佐藤栄治社長が講演を行った。地元農家をサポートしていくための取り組みや会社経営に関する苦労の他、商品開発の取り立ちや現在の経営実態などについて話した。部員は黒字経営に向け必要なことは何か、庄内柿の成分を使った商品開発が出来ないかなど熱心に質問や要望を両社長へ問い合わせていた。同部は今後、地域農業の守り手として農業の活性化と農業者が将来に展望が持てる施策の実現を図る。



女性部・加工事業の発展に向け女性の声を生かす

J A女性部藤島支部は11月12日、藤島支所で女性部座談会を開いた。この日は、部員が参加しやすいよう昼の部と夜の部2回に分けて開かれ、部員ら総勢約90人が参加。缶詰・豆腐・味噌の3つの加工事業の取り組みに対する意見要望を主として、①加工事業の経過報告②J Aからのお知らせ③今後の女性部活動が取り上げられ意見交換を行った。J Aの加工事業では、地域の資源を活かし自給運動や消費拡大に取り組む他、手作りの良さを伝えることを目的としている。そのため、同部では今後意見要望に沿えるよう対応策を検討していく。また、1月にはヨガ講座や女性部まつりを行う予定。



女性部・一日研修会で野菜の栽培学ぶ

J A女性部温海支部は11月7日、温海支所で女性部一日研修会を開いた。部員ら約60人が参加し、コロナ禍でのマスク着用による肌ケアに向けた化粧品の紹介や大根やキャベツなど日常野菜を栽培する際の肥料や農薬の有効な使用方法などを学んだ。また、SDGsの一環として家庭で余った食べ物を地域の福祉施設などに寄付する活動「フードドライブ」についても話し合い、意識統一を図った。部員は「野菜作りでためになる話を聞くことが出来てよかった。家庭菜園でも学んだことを試してみたい」と話した。部員らには、水耕栽培を通じ心の癒しを感じてもらえるようクロッカスの球根が配布された。



「心の声」

今年も残りわずか。
あなたの2021年の思い出は？

孫と立谷沢川上流の雄大な六淵ダムで泳ぎ、
カジカを捕まえたり、羽黒山石段を登り参拝
した夏、由良に釣りに行つた秋・久しぶりに
童心に返り楽しい思い出となりました。

M・Hさん【新余目】

私の2021年の思い出は、「aito」の「心の声」
に掲載してもらった事です。毎月、自分のメ
ッセージが掲載されているが楽しめています。
さらにプレゼントも当たった時はとても嬉しかったです。ありがとうございました。

K・Yさん【朝日】

誰もが思っているかもしませんが「につく
きコロナ」です。2年続けて千葉に住む孫と
も会えず残念至極です。でも考えようによっ
ては、希望が1年延びただけなのかもと思う
しかありません。

H・Kさん【立川】

去年から今年にかけて、腰椎圧迫骨折で入院
しました。もう歩けなくなるのかと思いまし
た。リハビリで理学療法士と作業療法士のス
タッフに若いパワーを頂きました。人生観が
変わったことです。S・Mさん【新潟市】



aito
Dec 2021
No.321

発行／庄内たがわ農業協同組合 〒999-7611
山形県鶴岡市上藤島字仙台下3-1 TEL.0255-61-3000
電子メール tagawa@tagawa.jp
印刷／庄内村工業商業組合連合会



佐藤 重胡さん(20) 立川支所管内

幼い頃から車が好きで、現在は地元の駐車場さんで働
いています。車が好きで、休日はドライブや愛車の洗車を
しています。将来の夢は、かっこいい車に乗ることです。

撮影場所＝フルーツショップ青森屋